

寺社を巡る会

活動記録書

開催日： 平成28年6月2日（木） 天候 晴れ	開催テーマ： 足利氏ゆかりの地を訪ねる
開催場所： 十二所・浄明寺・二階堂地区	記入者： 横山 美智男
参加人数：寺社を巡る会会員 男 32名 女 6名 計 38名 ビジター 男 1名 女 1名 計 2名 合計 40名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：十二所バス停～光触寺（法話拝聴）～明王院～浄妙寺～報国寺～フレンドリー鎌倉（昼食）～杉本寺～荏柄天神～頼朝墓（解散） 本日から三か年計画で鎌倉探訪を開始し、第一回目は足利氏ゆかりの地を巡った。 最初は十二所の光触寺を訪ねる。鎌倉時代に真言宗の寺として創建、四代目住持の作阿上人が弘安5年（1282）に一遍上人に帰依して時宗に改めた。本尊は阿弥陀三尊で国重文、中尊は頼焼阿弥陀として知られる。住職から由来などを拝聴し本堂内を拝観した。境内には伝説で有名な塩嘗地蔵がある。すでに鎌倉時代に塩商人が盛んに行商に出ていたことが窺える。庭にはちょうど花菖蒲が咲いていた。 次は明王院へ、鎌倉幕府四代将軍藤原頼経が発願し嘉禎元年（1235）に創建、鬼門除けの祈願時として当初は五大明王を祀った。寛永年間に火災があり不動明王以外すべて焼失、現在は茅葺屋根の本堂に不動明王とともに江戸時代に再建された四体の明王が祀られている。境内に一願水掛不動尊があり、それぞれが想いを願った。なお境内撮影禁止であった。 続いて鎌倉五山の第五位浄妙寺へ、頼朝の重臣、足利義兼が建立した寺、初めは真言宗で極楽寺という、その後に禅宗に改宗、元弘元年（1331）寺名を浄妙寺に改めた。最盛期は室町時代で足利氏の保護により、七堂伽藍が軒を並べ、塔頭23院を誇る。現在でも付近一帯の地名は浄明寺である。 次は竹の寺とも呼ばれる報国寺。開基は足利家時とされるが実際に寺を創建したのは宅間上杉氏の祖である上杉重兼で家時は勧請開基と考えられている。境内には昔から足利尊氏の父の貞氏の墓とされる逆宗塔（生前に建てる供養塔）があるが、銘文等から貞氏の宝篋印塔ではない可能性が高いとされている。境内の孟宗の竹林はいつ来ても見事である。 フレンドリー鎌倉の屋外炊事場で昼食を済ませて杉本寺に向かう。天平三年（731）に行基が開山、光明皇后が天平六年に本堂を建立したとされる鎌倉最古の寺。本堂内には三体の十一面観音像が安置されているが、格子戸奥で残念ながら良く見えない。行基作と伝承される観音像は伝説に基づき覆面観音、下馬観音とも呼ばれる。 次は荏柄天神へ、創建は長治元年（1104）。頼朝が幕府の鬼門の守護神として崇敬したとされる。本殿は鎌倉時代末期に建てられた貴重な建物で、鶴岡八幡宮の旧若宮社殿を移設したものとされる。 最後は53段の石段を上り源頼朝墓へ、現在の石塔は頼朝の子孫と称した島津藩主重豪が安永八年（1779）大御堂から移した層塔を補修したもの。隣には平治の乱以降、会うことのなかった実弟希義の墓所の土と石が運ばれて、835年ぶりに再会させたとの看板がある。 近くの公園前で終わりの挨拶を交わし帰途についた。初夏の好天に少し汗ばみながらの一日であった。	
参加者の状況・意見など： 鎌倉ガイドさんの説明は簡潔でわかりやすかった。訪問箇所が多く忙しかった。	
次回の予定： 7月7日（木） 10:00 北鎌倉駅（円覚寺側） 山の内地区	